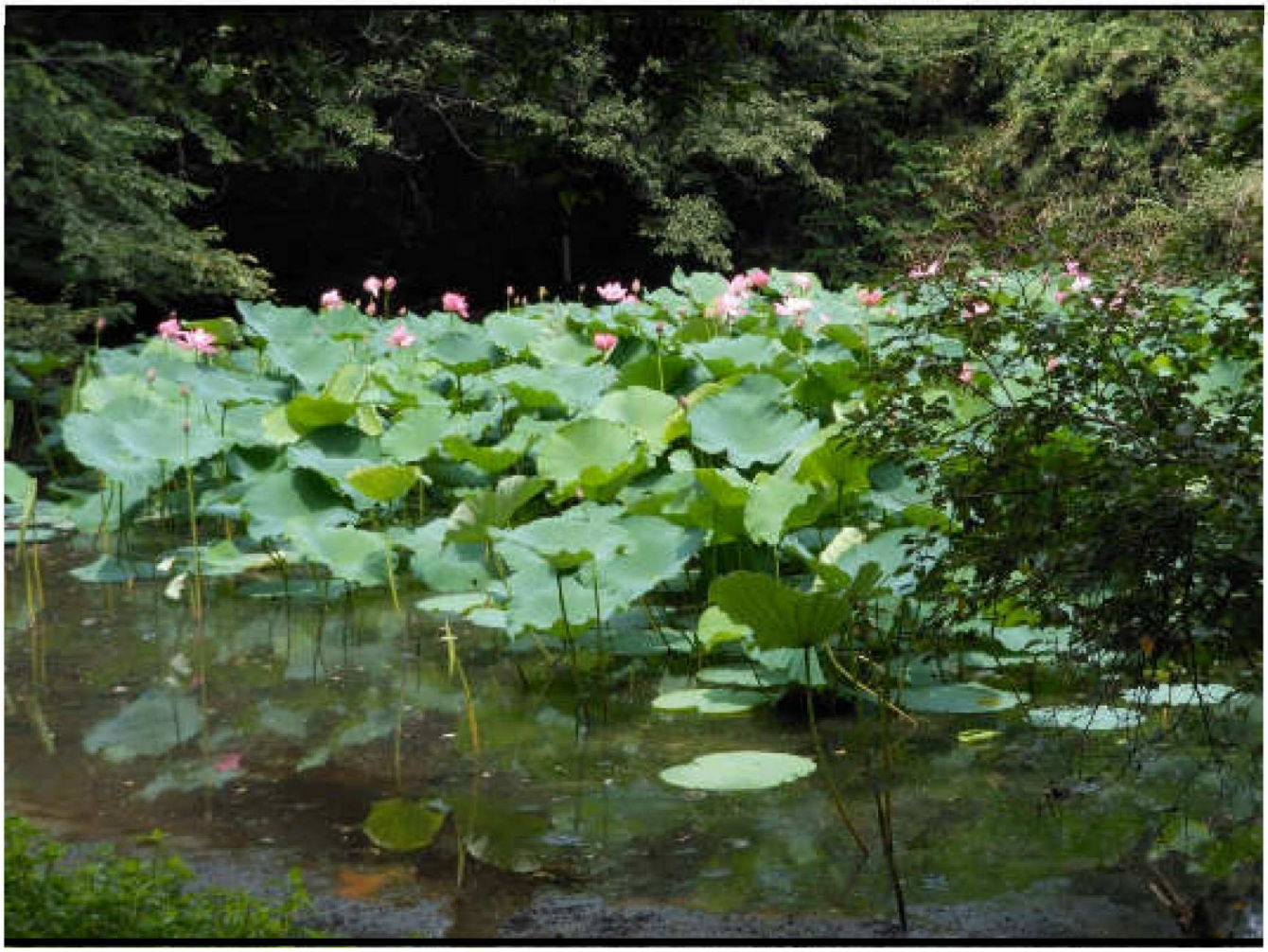
北鎌倉台峯トラスト　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2014 年 7 月　　NO.30



元々あったものか、誰かが移植したのか、議論喧しい「谷戸の池」のハスです。花自体は美しく、多くの人の目を楽しませてくれていますが。　（撮影：小谷一夫）

実 施 設 計 に 向 け て

目次

■「台峯実施設計(素案)」と「台峯実施設計（案）」に臨んで　2，3
■「実施設計(素案)」についての意見書　4，5
■会計報告　6
■新理事ご挨拶、総会報告　7
■随筆「台峯のホタル」　8
■台峯の周辺―歴史つれづれ―⑧　9
■掲示板　10
■謝辞・活動記録・編集後記　11
■「『山歩き』のご案内」 の挿絵から　12

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「台峯実施設計(素案)」と
「台峯実施設計（案)」に臨んで

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

概要

今年、4 月に「実施設計(素案)」が公開され、「谷戸の池」の堤防を再構築することが発表されました。それに伴い、工事車両の進入による散策路の整備が提案されました。市民意見を聴取、公募した後、7 月に「実施設計(案)」が作成され、具体的な工法が提示されたのです。しかし、堤防の再構築とヘドロ除去のため、池下流部の湿地を掘り返す計画になっており、景観と生態系への影響が危惧されています。

●実施設計の問題点

・不確定な内容

実施設計とは、整備工事の直前に、施工箇所の具体的な設計図や工法を決める計画です。台峯の保全が決まった 2004 年から、10 年をかけて、基本構想、基本計画、基本設計と段階を踏んで実施設計に臨みました。ところが、実施設計の(素案)および(案)では、景観や生態系に影響を与えかねない工法が提案され、当会では意見書を提出するなど行政に再考を促しています。また今まで計画に携わってきたコンサルタント会社に代わり、新しい会社が実施設計を担当したため、台峯の現場の把握が不十分な感は否めません。さらに、市の財政難から、予定されている道具置場、休憩所などの施設が全部できるとは限らないとの説明がされています。提示された整備計画がどのていど実行されるのか？　今回の実施設計(案)は不確定な要素が多いため、着工までどうなることか見通しがつかない状況なのです。

・湿地を掘り返す

「谷戸の池」の堤防の強度を詳しく調査したところ、地震の際に崩壊する可能性があるため、堤防を作り直すことになりました。浚渫したヘドロの置き場が基本設計で想定された場所では狭すぎることが分かりました。このため湿地を掘り返して、湿地の粘土を採取して堤防の材料にし、ヘドロを湿地に散布しながら表土と撹拌する工事計画になっています。

・護岸工事

「谷戸の池」の下流部、約 70mの水路に護岸工事を行うことになりました。石垣や砕石のカゴで水路が固められることになります。植生シートで石の表面を多い、植物を繁茂させるとのことですが、植生シートに含まれる外来種の植物ではなく、台峯の植物が生えなければ意味がありません。

・オギ原は無傷で残る

「谷戸の池」の工事のための道路(仮設路)がオギ原を縦断する計画になっていましたが、工事用の道路は現在の散策路に護岸工事をして補強し使うことになりました。このため、オギ原は無傷で残ることになりました。

●市民の意見

「実施設計(素案)」には多くの市民の意見が寄せられました。「台峯の現状に手を付けず自然のままにしてほしい」、「昔のような里山に戻してほしい」という意見が主です。これに対し市側の回答は、前者に対しては「管理上の責任があるので最低限の安全のための整備が必要」、後者に対しては、「基本構想、基本計画、基本設計に準拠した整備管理を行う」というものです。「都市公園のような整備は避けるものの、安全のための整備は避けられない」ということですが、「現状の自然に手を加えてほしくない」という市民の願いが伝わってきます。また、「昔と同じような里山の復元」は、「60 年前の景観と自然の状

態を踏まえて、人工的な整備を極力少なくし、積極的に里山の手入れ作業を行う」という意味です。これまで 10 年間の話し合いと情報公開のもとに決まってきたゾーニングを改変することはできないと思われますが、里山的な管理は台峯の保全手法に位置付けられているので、開園後も現場で話し合いながら維持管理の仕方を決めていくことになるでしょう。市民から毎回同じような意見が出ていることを行政は深く受け止めてほしいと願います。

●基金の立場

すでに 4 月の「実施設計（素案）」の段階で、当会は、次の頁に掲げた意見書のように、基本計画、基本設計に沿った考え方に基づいて、整備工事の規模の見直しを訴えております。ところが、7 月の「実施設計（案）」の発表では、この点には触れられず、工事の方法が具体化した結果、より一層景観と生態系の改変につながる計画になってしまったことに驚きを隠せざるを得ません。今後は、「谷戸の池」の工事の規模縮小を中心に市と交渉していくことになるでしょう。

●今後に向けて

順調に行っても整備工事が始まるのは平成 28 年 4 月、開園は平成 30 年 4 月となります。遅れる可能性も高いのですが、当会は開園まで少なくとも 3 年間は台峯の保全活動を続けることになります。おそらく今年中には整備計画が固まると思われますが、その後も工事方法の細部の検討や、工事に先立ち生物の退避と保全、さらに工事中の環境変化について下記のようなことを中心に見守っていかねばなりません。

・ため池の浚渫と堤防再構築

ヘドロをすべて浚渫し昔通りの水深にすれば工事が大規模になり、下流の湿地を掘り返すことになります。工事の規模縮小が出来なかったとしても、ヘドロの置場の工夫と堤防の土を外部から搬入すれば、工事費はかかりますが、湿地を掘り返すのは避けられます。

・湿地の回復

地下の粘土層を削れば、元通りに湿地が回復するとは限りません。

・護岸工事

石積みの護岸工事による水路への影響、そして石積みの間から植物が生えるかどうかは難しい問題です。

・散策路の整備

「谷戸の池」周辺の散策路は、現場の土で鎮圧するとどめ、舗装はもちろん、外部からは土を持ち込まないとのことですが、工事が始まれば現場の判断で工法が変更されるかもしれません。

・生き物の退避

「谷戸の池」の貝類とハゼ類、湿地のヘイケボタルとホトケドジョウ、水路の貝類など貴重な生物が新たな場所に定着してから着工すべきですが、今からでは遅すぎる感もあります。それぞれ生息環境が異なる生物を、「退避」という言葉で一括りにするには無理があります。現場に詳しい市民が関わって早めに移動対策を講じるべきでしょう。

●最後まで関わる

当会は、台峯を毎月歩いて 16 年、台峯の整備計画に当初から関わって 10 年になります。近年、最も密接に台峯に関わってきた市民団体であることは間違いありません。整備工事が始まると、後はお任せの状態になりがちですが、工事中こそ、モニタリングと保護活動そして行政との交渉に力を入れなければなりません。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「実施設計（素案）」についての意見書

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

去る6月18日、市により発表済の「実施設計（素案）」について、当基金の意見を取りまとめ、意見書として公園課宛に提出いたしました。以下の通りです。

山崎台峯緑地実施設計素案
についての意見書

今回、提示された実施設計素案（以下設計素案と称す）の問題点を指摘することは十分な検討期間が確保されていればそれほど、難しい事ではありません。

しかし設計素案を見ただけでは市民と市が協働して作り上げた基本構想、基本計画の根底に流れる基本的考え方が見過ごされてしまいます。基本的考え方に立って設計素案を見直すことが必要と思われます。

山崎台峯緑地（以下台峯緑地と称す）に住宅地の開発計画が浮上したのが1971年、それ以降、長年にわたり開発の危機にさらされてきたのですが市民の粘り強い保全活動により2004年12月、鎌倉市による買い取りが決定しました。

その後、2006年の基本構想、2007年の基本計画と基本設計が完成しました。その過程で共有されてきた「基本的考え方」は基本構想、基本設計の中でも記述されています。

○現存する自然環境を最大限保全し、基盤造成や水環境の改善施設の整備にあたっては必要最小限の整備にとどめる。

○台峯緑地に対する市民の意見等の尊重と市民参画による計画及び運営

基本設計が出来てから7年、ようやく本年4月になって設計素案の概要と説明会の実施について情報を得ました。

すでに基本設計段階で細部まで記述されているため、その延長線上に位置づけられる設計素案については市の担当部署より微調整程度との説明を受けておりました。

ところが、配布された設計素案を読むと基本的な考えに抵触するような変更が記述されております。

その第一は散策路設計です。

基本計画の中では散策路は主動線と副動線に大別されています。

主動線は0.5m～1.5m管理用主動線でも1.8mと決められていたものです。設計素案では主動線は平均1.8m、管理用主動線は1.8m～2.0mと変更されています。

副動線は基本計画では0.5m～1.0mとされているのに実施素案では1.2m～1.5mに変更となっています。

基本計画で熟慮を重ねて考えた散策路幅員が何の説明もなくしかも基本計画の範囲を超えてまで設定されているのです。

当時道路幅員を考える際、大前提となったのが現存する自然環境の最大限の保全でした。幅員を広げることが自然環境に想像以上の負担を及ぼし破壊につながる事を避けるべきと考えたのです。

安全、安心等幅員を広げる理由はいくらでもあるでしょう。一旦、幅員を広げてしまうと元には戻りません。それは鎌倉のどこにでも見られる「谷戸風景」と変わらないものになります。基本設計では台峯緑地の谷戸は特徴的な谷戸の景観と自然環境が残されており都市計画資源として保全を図ると述べています。

第二はため池，堤体（堰堤）整備です。

堰堤の整備を行うことで結果的にそれが自然破壊に繋がるとしたら、それこそ本末転倒です。

設計素案では 3000 トン以上の水を溜めるため池は技術基準に準拠した構造とし、そのための工事が必要であると記されています。併せて現在の堰堤が脆弱で安心安全面から大掛かりな作業が必要とされています。

いったいどのくらいの費用がかかるのでしょうか？　コスト面での表示がありません。基本設計では総工費2．5億円、堰堤工事は必要最小限にとどめるとし、費用も1500万が計上されているにすぎません。

ため池は今や農業用の用途は無くなり、谷戸に住む動植物、特に水生生物の為、そして台峯の自然景観を作り上げているオススメスポットです。3000トン以上の水をためる必要などありません。規模を縮小し基準値以下にすればよいのではないですか？

堰堤は必要最低限の補修にとどめ、例えば水門を作って、手動で水量の調節をしたらいかがでしょう。

地方交付金の交付団体になった鎌倉市は財政面でも厳しい状況にあります。
改修工事も必要最小限の作業にとどめ「様子を見る」といった方向に考えを改めた方が良いのではないでしょうか？

大規模補修工事となれば仮設道路を設けるにしても環境破壊は避けられません。

以上から明らかなように今回示された設計素案は台峯緑地の自然環境破壊につながる恐れがあります。

設計素案は期限を決めて拙速に結論を出すことは避けて下さい。過去10年近く、基本構想、基本計画、基本設計と行政と市民が話し合ってきた経緯を踏まえ、市民の意見を尊重し時間的余裕をもった話し合いの場を設けるよう強く要望する次第です。そして知恵を出し合って、より良い実施設計素案として完成させたいものです。

2014年6月18日
北鎌倉の景観を後世に伝える基金
理事長　出口克浩

実施設計（案）の説明会に出席して

7 月 24 日、25 日の 2 回、市公園課による説明会が開催されました。25 日の出席者は計 25 名ほどでしたが、当基金からも理事長以下 5 名が出席、積極的に質問・意見表明を行いました。

基金としての意見は期限の 8 月 15 日までに纏めて市宛に提出しますが、時間的な理由から、こうした動きは主にホームページで皆様にご報告の予定です。ご高覧願います。

なお、その場で明らかになったのは、ため池堤体の改修理由として地震による崩壊のおそれが挙げられていますが、その被害とは下流域への土砂流出ではなく、その場にいた人の身の危険なのだそうです。

確かにそれは無視できないものの、崖や大木の下など他の場所は果たして安全なのでしょうか。代償の大きさを含め、バランス感覚や順序関係も重要だと思うのですが。　（T．H記）

会 計 報 告

（2013年4月1日より2014年3月31日まで）

特定非営利活動法人　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

（単位：円）

科目		金額	摘要
収入	正会員会費収入	42,000	@3，000円
	個人会員会費収入	186,500	普通会員@2，000円、家族会員@500円
	団体会員会費収入	3,000	@3，000円
	機関紙収入	2,000	@500円
	カレンダー収入	304,690	
	民間助成金収入	304,600	みどりショップ他12件
	寄付金収入	75,500	7件
	受取利息	214	預金利息
	その他	2,639	保険料戻し他
収入計		921,143	
支出	（緑地保全・管理事業）		
	整備作業費	16,334	道具購入および研磨費用
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	損害保険料	3,900	
	雑費		
	小　計	32,234	
	（普及・研修事業費）		
	通信運搬費	74,995	
	印刷製本費	243,140	カレンダー、会報、山歩きチラシ印刷
	編集費	70,000	カレンダーデザイン
	事務消耗品費	6,682	
	賃借料	46,000	山歩き会場使用料
	損害保険料	3,900	
	雑費	4,200	
	小　計	448,917	
	（広報・出版事業費）		
	通信運搬費	6,802	ホームページ回線使用料
	印刷製本費	15,630	しおり印刷
	広告宣伝費	50,000	鎌倉朝日広告掲載料
	雑費	210	
	小　計	72,642	
	（交流・協力事業費）		
	負担金	3,000	鎌倉NPOセンター年会費
	事務消耗品費	3,495	
	雑費	60,295	
	小　計	66,790	
	（管理費）		
	通信運搬費	13,530	会費入金費用
	事務消耗品費	460	
	賃借料	32,000	公会堂使用料
	雑費	7,064	
	小　計	53,054	
支出計		673,637	
収支差額		247,506	
保有資産	現金	333,609	
	当座預金	2,182,246	郵貯
	普通預金	604,565	郵貯￥17,739／三東U￥586,826
	定期預金	288,330	郵貯￥239,248／三東U￥49,082
計			
正味財産		3,408,750	

監事の林雄一郎先生より、適正との監査報告書を頂戴しております。

新理事ご挨拶 (原稿到着順)

○植木 よう子

初めまして。今年度より新理事に加えて頂く事になりました植木と申します。

今までは探鳥会や自然観察会などに参加したり、子供向けの観察会で指導員をしたりと自分自身が鎌倉の自然を楽しみながら、この自然の大切さをどうやって分かち合っていけばいいのかと考えてきました。

この度「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」に理事として参加させて頂く事となり、今後の台峯のために少しでもお役に立てれば、と思います。

○小谷 一夫

このたび、新しく理事にさせていただきました、小谷一夫と申します。

主に山の手入れに参加させていただいています。住まいが目黒で目黒線の西小山駅や東横線の都立大学駅が最寄駅で、北鎌倉まで約 1 時間。ちょっとしたハイキング気分で出かけています。台峰近隣在住ではありませんが、逗子に親戚がいたので、子供のころから法事等で鎌倉方面には出かける機会が多く、とても親しみ深い場所です。

観光地としても人気があって、開発の動きも点々ある北鎌倉にあって、深山を思わせるような台峰の谷戸は、大変稀有な存在で、その台峰の保全活動を今まで以上に、参加させていただくことは大変うれしく思います。

総会報告

去る5月17日(土)夕、山ノ内公会堂にて第13回通常総会が開催されました。議案としては、

①平成25年度事業報告書と計算書類の承認(会計報告は前頁ご参照)

②平成26年度事業計画と予算書の承認

③理事・監事の改選

の3つでしたが、いずれも賛成多数で可決された次第です。

③についてもう少し詳しくご報告すると、2年の任期が満了となる理事と監事の後任を選任するものでした。

理事としては、現任の望月眞樹、望月晶夫、小田原茂夫、和泉あき、森泉定男、本田隆史、久保廣晃、出口克浩、島田哲夫の各氏が再任されるとともに、左の「ご挨拶」の通りに小谷一夫、植木よう子のお二人が新たに選任されましたので、総勢では都合11名となります。

また、監事としては、林雄一郎氏が再任されました。

6月からこの新しいチームで基金の運営にあたっていますが、「実施設計」とこれに基づく供用開始に向けて、一同決意も新たにしているところです。これから 2 年間、会員の皆様にはお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、これを機に石黒ひで、新槇幸子の両理事が退任されました。永い間お疲れ様でした。

随筆　　台峯のホタル

鎌倉市の広報などでご存知のように「山崎台峯緑地実施設計案」が発表され、まもなく「鎌倉市緑の基本計画」に基づく都市緑地として開園する運びとなりました。台峯の開発阻止を目指して「基金」が発足してから、いろいろなことがあり、多くの方々との出会いがありました。ふりかえるとはるばると来たものだという感慨もなくはないのですが、この間、みなさまや私どもが一番心を留めてきたのは、台峯に棲息する生きものなのだろうと思います。

季節なのでホタルのことを考えます。最近は全国各地でホタル観賞の催しが行われています。ホタルの養殖そのものはそれほど難しくはないのだと教わりましたが、台峯はもちろん全くの自然任せなので、毎年、六月から七月にかけて二、三回行っているホタル観察の時にはどれ位光を見せてくれるかどうか、かなりスリリングな期待があります。ゲンジボタルとヘイケボタルは重なる部分もありますが多少時期がずれます。ホタルの明滅は中央地溝帯を境として、東と西では違うのだそうです。私も西の地方で二、三回見学したことがありますが、たしかに強さが違うように思いました。台峯のホタルは七時半ころから光り始め約一時間程、九時にはすっかり終わってしまいます。台峯のホタルはとても早寝なようです。

それにしてもゲンジボタルとヘイケボタルとはどこで命名されたのでしょうか。ご存知の方も多いように「源氏物語」には「蛍」の巻があります。何しろ物語の題名や主人公の名前が源氏なのでややこしいのですが、勿論当時ゲンジボタルと言ったはずはありません。区別して称ばれるようになったのは、多分江戸時代からだろうと誰方かが教えて下さったのですが、まだ調べておりません。薄様の紙に包ませておいたホタルを几帳の垂れを掲げて放し、女君の顔を見せるという幻想的な場面は好まれたのだろうと思います。

ホタルに限らず九月には国産（？）のマツムシも鳴きます。これからできるだけ環境を壊さないよう整備が進められていくのだと思いますが、それがホタルにもマツムシにもホトトギスにも生き易い整備であるよう願わずにはいられません。また、そのためにできるだけ力を尽くしていきたいと思っています。

和泉あき

台峯の周辺　－歴史つれづれ－　⑧

“マリア様の心、それは山百合～”聖堂から少女たちの歌声が聞こえてくる。聖母の象徴ながら西欧に良い百合がなく、シーボルトらにより日本の白百合が紹介されたところ熱狂的に迎え入れられたという。中でもヤマユリは神奈川「県の花」なのだ。

中国のチャノキを印度へ、そして富を英国にもたらしたプラントハンター、R. フォーチュンは文久元（1861）年横浜から鎌倉への途で乱れ咲くヤマユリの根を採取する。

明治に入ると欧米の博覧会で絶賛を浴び、明治 10 年頃横浜の外国人貿易商がユリ根を海外に輸出し始めた。江ノ島に名を残す S. コッキングらである。3 銭で仕入れたヤマユリが海外で 5 円に売れた差益は外国人が独占した。20 年代になり使用人の日本人が独立したのが、例えば現在に続く横浜植木㈱である。隆盛を極めた戦前の同社カタログはいま見ても豪華なものだ。

明治 25 年、後に英国王立水彩画家協会長となる A.パーソンズが来日、各地の風物を記した画文集 *NOTES IN JAPAN* をものにする。初夏の鎌倉として掲載された画に大仏、八幡宮の蓮（この原画と思しきは郡山市立美術館蔵。昨年平塚美術館で展示された）とともに「鎌倉付近大船のユリ畑」がある。栽培中なのだろう、沢山の花が繚乱している。一体ここはどこか？

まず「大船」は村名ではなく大船駅近くの意だろう。また画から読みとれるのは、①ウィルスに弱いヤマユリなので、明治 21 年開業後氾濫の増えた駅周辺ではない、②右向うで刈取り中は麦だろうから水田にならぬ高台である、③影からして陽は高いが右にあり、ユリの嫌う西日でも夏の農作業に適さぬ午後の情景でもないとすれば、画面は北か東向きである、④遠くの山は左ほど遠ざかるので西か北に開けた谷戸である。

しかし、現況は様変わりしている。10 年遡る明治 15 年陸軍作成地図から 1 万分の 1のレリーフ(下)を作り、ここぞと思われる地点から覗いてみた。もとより樹木は不明だし、10m間隔の等高線で作ったごく粗いものだが、山の稜線（中）が画(上)と合致しているとすれば六国見山を東に見晴るかす台の辺りということに、、、？

それはともかく、各種ユリ根の輸出は第2次大戦まで続き、大船も一産地として供給を担った。希少ながらも天然ヤマユリは台峯の所々で花開く。いつの日か咲き乱れる姿を見たいものだ、歌の続きのように思うから。“～私達も欲しい、白い山百合”（『マリア様のこころ』典礼聖歌 407 番）　　本田 隆史

掲　示　板

① 展覧会 「なだいなだとフランス」

＜会場にて＞

当基金を永らく率いて下さったなだいなださんが亡くなって、早や 1 年になります。

なださんのご遺族からもご案内頂きましたが、フランスや軽井沢との関わりを中心に、人と作品を紹介し、回顧する展覧会が開催されています。自然保護に尽くされたことは意外に知られていないようで、当基金も写真などの資料を提供しました。

・期間：2014 年 7 月 19 日（土）～10 月 13 日（月）
・場所：軽井沢高原文庫（軽井沢・塩沢湖畔）
・入場料：大人700円、小・中学生300円

なお、8月9日（土）には長女由希さん、同24日（日）には加賀乙彦氏の講演会なども企画されています。（別料金）

お近くで避暑される場合など、ぜひご覧下さい。

② 鎌倉駅スタンプに建長寺・円覚寺が

昨平成 25 年度は鎌倉駅のスタンプが月毎に替わりました。12 か月のうち、昨年 9 月が円覚寺、今年 3 月が建長寺でした。

円覚寺

建長寺

③ 歌舞伎「東慶寺花だより」

新築なって大賑わいの歌舞伎座で、正月は井上ひさし原作の新作狂言が上演されました。NHK中継でご覧になられた方も多いかもしれません。

鶴岡八幡宮や極楽寺など鎌倉に舞台を移した演目は多くても、北鎌倉は少ないようです。登場人物がみな幸せになるような暖かい話ですので、これからも上演されることでしょう。

④ NHK番組 「あの人に会いたい」

6 月 7 日朝、なださんが登場されました。

医学に文学にフランスにと、多彩な才能を発揮された故人を、若き日から晩年まで振り返り、偲んだ 10 分間でした。

なださんに会いたい、ものです。

謝　　辞

1999 年以来、多大なご支援を頂いてきたリサイクルハウス・みどりショップが今年 5 月末をもって閉店しました。

当基金は、「会員の集い」などで毎回のように代表の方からご挨拶を頂き、また金銭的にもご支援額は累計で約 7 百万円に及びます。

英国のNPOをもって範とし、寄付による古着など販売して得た資金を自然保護諸団体に寄付下さいました。つまり、リサイクルと寄付と、自然に対して二重に優しい活動だったと言えます。

店舗の建物が老朽化し、耐震性に不安が生じたための閉店とのことですが、当基金としては感謝の気持ちを持ち続け、その理念を後世に伝えていければと願っております。

ありがとうございました。

活 動 記 録

（2013 年 12 月 ～ 2014 年 7 月）

1「実施設計」について市に説明を求む　4/28
2「実施設計(素案)」につき意見書提出　6/18
3 公園課との現地視察　7/13
4「実施設計(案)市民説明会」出席　7/25
5「会員の集い」　12/8
6 総会　5/17
7 理事会　12/1,1/5,2/2,3/2,4/6,5/4,6/1,7/6
8 鎌倉市都市ﾏｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ評価検討協議会出席　12/16,1/23
9 台峯を歩く　12/15,1/19,2/16,3/16,4/20,5/18,6/15,7/20
10 山の手入れ　12/14, 1/18,2/15(降雪中止), 3/15,4/19,5/17,6/14,7/19
11 モニタリング　12/1,12/14,1/5,1/18,2/2, 3/15,,4/19,5/4,5/17,6/14,7/6
12 オギ原 手入れ＋モニタリング（試行）　12/6, 1/10,1/24, 2/28,3/14,3/28
13 ホタル観察会　6/22,6/29,7/13
14 北鎌倉女子学園生徒を案内　3/12
15「老人党」有志を明月院などに案内　6/7

編 集 後 記

【問題】

ある日の観察会で「あっ、ヤマト〇〇〇！」の声に、ある人は草むらに、またある人は水の流れに目を遣りました。さて、ここで問題です。〇〇〇に入る言葉は何ですか？

【解答】

久保理事によると、台峯にいる貝は淡水性の「マシジミ」なので、水底を覗いた人は本来誤りとのこと。

また、蝶の方も過去7年間のモニタリング記録には現われません。ただし、「老人の畑」では食草のカタバミがわずかながら観察されているので、あるいは逢える可能性はあります。もっとも、庭でも見られるものよりも、ギシギシのベニシジミやハンノキのミドリシジミの方が台峯らしいですね。

というわけで、答えは「シジミ」でした。

では、暑さ厳しき折、ご自愛のほど。

会報 30 号

発行日　2014 年 7 月 31 日

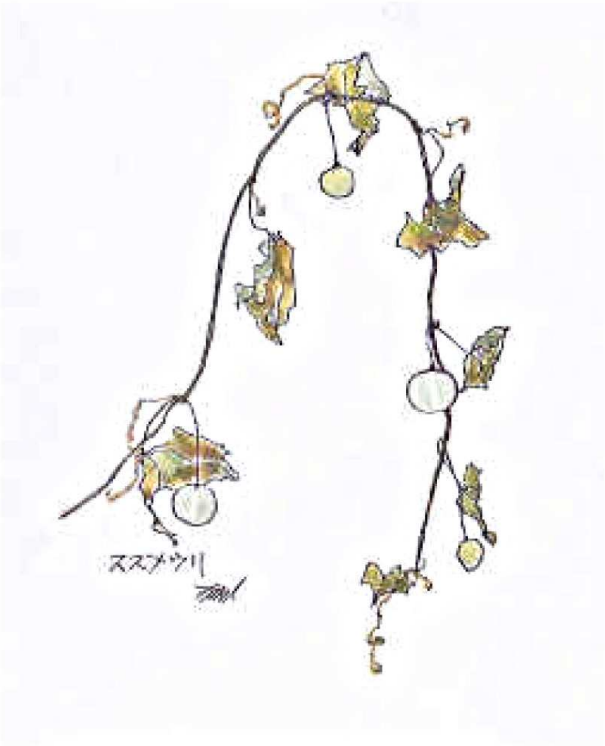
発行者　特定非営利活動法人
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局　〒247-0062 鎌倉市山ノ内 704-9
（和泉方）Phone：0467-47-9892

HP　www.kitakamakura-daimine-trust.org

写真　小谷一夫・本田隆史

「『山歩き』のご案内」の挿絵から



スズメウリ（2013 年 12 月）

ガガイモの赤ちゃん（2014 年 3 月）

シロハラ（2014 年 1 月）

タチツボスミレ（2014 年 4 月）

枯野のホホジロ（2014 年 2 月）

ハンショウヅル（2014 年 5 月）

＜いずれも石原瑞穂氏画＞